

立命館大学において講師を務めました（2019/11/26）

テーマ：東日本大震災、復興曲線、災害リスクマネジメント、インドネシア
 場所：立命館大学歴史都市防災研究所（京都府京都市）

2019年11月26日、立命館大学歴史都市防災研究所にて開催された、インドネシア国家開発企画庁（BAPPENAS）職員研修において、当研究所の村尾修教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）が講師を務めました。「Lessons Learnt from the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami and Study on Making Post-disaster Recovery Curves」と題して、インドネシアの行政官25名を対象に、日本における災害と都市防災の歴史に関する講演を行いました。

立命館大学では2009年度よりインドネシアの政府機関である国家開発企画庁からの要請を受け、将来を担う人材の育成を目的とした研修を実施しており、今年度は防災に関する取り組みについて焦点が当てられました。

村尾教授は、これまでの海外における災害復興に関する研究やリスクマネジメントの重要性についても話しました。参加者は熱心に耳を傾けており、講義後にはインドネシアにおける防災対策について積極的な議論が展開されました。



会場入口



会場の様子



講義の様子（村尾教授）



講義の様子（梶秀樹先生）